

スーパー耐久シリーズ2017第2戦 SUGOスーパー耐久3時間レース



優勝！！！！

もてぎ戦に続き二連勝！！！！

レポート 日産栃木自動車大学校 学生広報部

2017年4月27日～4月30日

このプロジェクトは下記のパートナー企業に支えられています



- 始めに -

4月29日～4月30日にかけてSUGOサーキットにて2017年スーパー耐久レース第2戦が行われた。

今シーズンからカーナンバーが「24」から王者の証である「1」となり、第1戦優勝のためSUGO戦ではウエイトハンデ30キロ課せられ、戦いに挑みました。

- レース結果 -

予選日 4月29日 天候：晴れ 路面：ドライ

Pos	No	Team	A Driver	B Driver	C Driver	A+B Time
1	8	ARN Ferrari 488 GT3	1'22.182	1'20.066		2'42.248
2	3	ENDLESS・ADVAN・GTR	1'22.014	1'20.997	1'21.759	2'43.011
3	1	スリーホント'日産自動車大学校 GT-R	1'21.797	1'21.324	1'21.716	2'43.121

決勝日 4月30日 天候：晴れ 路面：ドライ

Pos	No	Team	Lap	Time
1	1	スリーホント'日産自動車大学校 GT-R	124	3h00'15.445
2	3	ENDLESS・ADVAN・GTR	124	3h00'18.503
3	8	ARN Ferrari 488 GT3	124	3h00'37.980



- 活動内容 -

● S T O



S T O領域の活動は、重量、内装、灯火類、下周りなどの点検を行う“車検”、車両に規定のステッカーが貼られているかを確認する“ステッカー確認”、ドライバー毎にタイヤを区別するためのマーキングを行う“タイヤマーキング”、レースクイーンやドライバーへの打ち合わせや諸注意などを展開する“レースクイーンブリーフィング”、“ドライバーブリーフィング”等を行いました。

- 学生リーダー 4年 大出 侑吾 (参加回数4回) -

- リーダーとして活動した感想 -

昨年のSUGO戦では班長として、今年は学生リーダーとして参加。私と同じように貴重な体験をしてもらいたいと思い活動をしていました。今回は強風のためテント設営を断念するなど、イレギュラーな事があり不安もありましたが、KONDO Racingのスタッフの方々、先生や学生スタッフの協力がありスムーズに活動することが出来ました。S耐活動に協力して下さった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



- S T O領域 3年 富田 直輝 (初参加) -

- この活動に参加した経緯 -

昨年スタッフとして参加した同級生にS耐の話聞かせてもらい、自分も参加してみたいと思い今回参加しました。

- 活動を通して学んだ事、また、それをどう活かすか -

ピット作業や車検の手伝いを実際に行い、学校では決して教わらない耐久レースにかかわることが出来てよかったです。また、4日間班行動をし、結束力が大きくなったので今後の学校生活に活かしたいと思います。



●テクニカル



テクニカル領域の活動は、実際にレースで走行するGTRを整備するため、PITで活動をしています。活動内容はタイヤ脱着、アライメント測定用の特殊工具の取り付け、ボンネット脱着、高馬をセットする、燃料を補給する際に消火器を構えるなどの補助作業。気を抜くと大事故につながるため、各員、真剣に取り組んでいました。

- 豆知識 -

・タイヤを置く順番は？

縦に積む場合は、下からRR、RL、FR、FL、

横に置く場合は、左からFL、FR、RL、RRの順番に置く。

＊横に置く場合は、タイヤを均一に温めるために一定時間が経ったらタイヤを回転させる。

・前後左右でタイヤの空気圧が異なるのは？

サーキットによってコーナーも変わるので、グリップ力を最大限に発揮させる。

・車両のリアバンパーに付いている赤、黄、黒のチューブは？

赤はミッションの圧抜き、黄はエアコンの水抜き、黒は燃料タンクのガス抜き。

・ブレーキローター近くにエアダクト？

空気の通り道があり、常にブレーキを冷やしている。

- テクニカル領域 1年 瀬山 和弘 (初参加) -

- この活動に参加した経緯 -

志望している職種がレーシングメカニックなので、学生の中にこのような経験ができるのはとても魅力的なので今回参加しました。

- 活動を通して学んだ事、また、それをどう活かすか -

現場でしか経験できない体験ができ、改めてレーシングメカニックへの熱い気持ちが湧き上がりました。この気持ちを胸に来年、再来年も参加したいと思います。



● マネジメント領域

ホスピタル領域の活動はお客様、関係者様にお食事などを提供するおもてなしや、そのお客さまをお招きするテントを設営します。レース当日は、強風の影響のためテントでのおもてなしを断念し、代わりにゲストルームを借りて、そこで活動を行いました。



- マネジメント領域 2年 青木 龍 (初参加) -

- この活動に参加した経緯 -

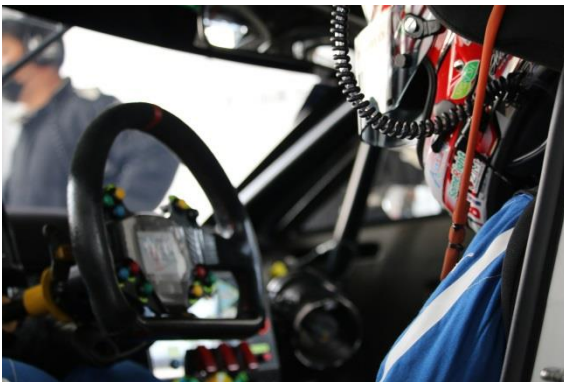
幼いころからレースに興味があり、見る側ではなく支える側の視点で経験したいと思い参加しました。

- 活動を通して学んだ事、また、それをどう活かすか -

食事の配膳の仕方を通してお客様への気配り、対応の仕方などを学びました。これらの学んだ事を将来、就職した際に活かしたいと思います。



● ドライバーサポート(ドラサポ)



ドライバーサポート領域の活動は、ドライバーに飲み物やヘルメットの受け渡しなどのアシストをします。

- ドライバーサポート領域 4年 直井 健史 (参加回数2回) -

- この活動に参加した経緯 -

前はテクニカル領域で参加していたので、今回は違う経験をしてみたいと思い、ドライバーサポートとして参加しました。

- 活動を通して学んだ事、また、それをどう活かすか -

ドライバーさんのレースに対する熱意に強く感銘を受け、私も常に熱意を持ち前向きに取り組もうと思いました。



- 授業 -

●UD TRUCKS 様

UD TRUCKS 様は現行モデルのトラックをお持ち下さり、トラックの仕組み、乗用車との違いなどを教えていただきました。

実際にトラックに使用されているピストン、ブレーキドラムなどを待ってきていただき、乗用車との違いを触れて体感させていただきました。



●MAC TOOLS 様

私たちが普段使用している工具の使い方や、MAC TOOLS 製とそれ以外のメガネレンチの特徴を教えてくださいました。

MAC TOOLS 製のソケットはネジの頭が 85%削れていても回せるという驚きの性能を体感させていただきました。



●JVCKENWOOD 様

JVCKENWOOD 様には今一番伸び盛りで注目度が高い AUTOMOTIVE 部門からドライブレコーダーについての技術を教えてくださいました。

実際に他の製品と比較した映像を見せていただき、ケンウッド様の技術の高さに感銘を受けました。



- コントロールタワー見学 -



コントロールタワーでは全長 3.775 キロのレース状況を各ポイントに配置された定点カメラによりレース全体の状況を把握し円滑なレースを運営している。

ゴール前ストレート 600 メートル、バックストレート 800 メートルあるが、バックストレートは下りになっており、ここで最高速がでます。その為、バックストレートの中間地点に測定器が設置してあり、速度が測定されます。タイム測定は各車両に取り付けたトランスポンダーにより 1/1000 秒単位で計測しています。機械で判断できない場合（同じタイミングでゴールした場合など）、写真判定にて判断します。

- ドライバーインタビュー -

※ドライバーインタビューは予選走行後に行いました。

- インタビュー内容 -

- Q1. ウェイトハンデがある中、どんな事を心がけて予選を走行しましたか？
- Q2. 予選走行をした結果、手応えはいかがでしたか？
- Q3. G に耐える為のトレーニングはどのような事をしているのですか？
- Q4. 前回近藤監督が「お手伝いではなく本気モードというスタイルに変えていきたい」とおっしゃっていましたが、栃木校の学生の動きは如何でしたか？
- Q5. 最後に明日の決勝の抱負をお聞かせください。



●内田 優大 選手(A ドライバー、ジェントルマン)

- A1. 気にしても仕方ないので、とにかくドライビングに集中するだけ。
- A2. 予選は3位でしたが、僕ら3人の力を考えれば優勝できるとおもっている。
- A3. ジムでトレーニングしています。
- A4. しっかり取り組んでいる。その姿を見ると初心を忘れたくないという気持ちを持たせてくれるのでありがたいです。
- A5. 藤井さん、平峰さんはすごく速いドライバーなので自分はミスやトラブルなく GT-R を繋げられればいい結果が得られると思うので一生懸命頑張ります。



●藤井 誠暢 選手(B ドライバー、プラチナ)

- A1. そんなに考えてもしょうがないので意識していない。
- A2. 予選は3位ですが、レースになったらチームになるので優勝したい。
- A3. 実際に車に乗るのが一番なので、車に乗る機会を増やしている。
- A4. 一生懸命取り組んでいたと思います。
- A5. 菅生のコースは難しいので、状況状況で判断を間違えないようにしつつ、緊張の中で勝てるように。



●平峰 一貴 選手(C ドライバー)

- A1.おろせるかと言っておろせるものではないのでしっかり走れるようにしたい。
- A2.優勝に向けていい方向に仕上がってるんじゃないか。
- A3.藤井さんと同じく車に乗って G をあえてかけてます。
- A4.とてもよくやってくれているとおもう。
- A5.いろんな動きに対応できるように頑張る。



- 広報部編集後記 -

●広報リーダー 4年 高木 維 (参加回数4回)

栃木校では広報の経験者が私だけだったので、前回のもてぎでの広報リーダーの経験を踏まえながら、後輩の育成も考えながらの参加となりました。広報として今回を含めて4回参加させていただきましたが、参加する度に新たな方との出会いがあり、このプロジェクトは多くの方々に支えられているのだと強く感じました。



●広報 3年 生田 力 (初参加)

3年生になり、上級生としての自覚をもつため今回のプロジェクトに参加させていただきました。テクニカルやドライバーサポートなど自分の活動に集中して参加している学生スタッフが多い中、広報は学生全体の動きを把握し、色々な活動取材しているので他の学生に比べて得るものは多かったのではないかと感じました。



●広報 1年 小保方 純麗 (初参加)

このプロジェクトで自分の力量を知り、この経験を将来に役立てたいと思い参加しました。主にカメラを担当し、一瞬を写真に収めることで“新鮮さ”を伝えることを意識しながらシャッターを切っていました。スタッフの方や参加した学生の真剣な眼差しを間近で見、近藤監督がおっしゃっていた「学生はもうお手伝いではなく本気モードというスタイルに変えていきたい」という思いを肌で感じました。



この活動を支援、応援して下さる全ての方に感謝申し上げます。
学生教員一同、これからも精一杯取り組んでいきますので、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。
レポート作成 日産栃木自動車中学校